

# International Symposium on Oral Health Education and Research 報告

国際イニシアティブ人材育成プログラム・石田陽子  
特任助教(予防歯科学)

2011年12月10日(土)、11日(日)に、インドネシア・東カリマンタン州(カリマンタン島)バリクパパン市にて、表記の国際シンポジウムが行われましたので、ご報告いたします。

本シンポジウムは、文部科学省の支援を受け、新潟大学歯学部とインドネシア大学歯学部の共催で開催されました。シンポジウムは歯学部における国際交流や現代の口腔保健医療教育の向上をメインテーマとし、両大学からの発表者に加え、国内外から多くの講師を招き、活発な討論が行われました。

開会に際し、インドネシア大学の Bambang Irawan 学部長と、本学の前田健康学部長から挨拶があり、そして現地からの歓迎の表現として原住民ダヤック族に伝わる狩りのダンスが披露され、バリクパパン市長からもご挨拶をいただきました。

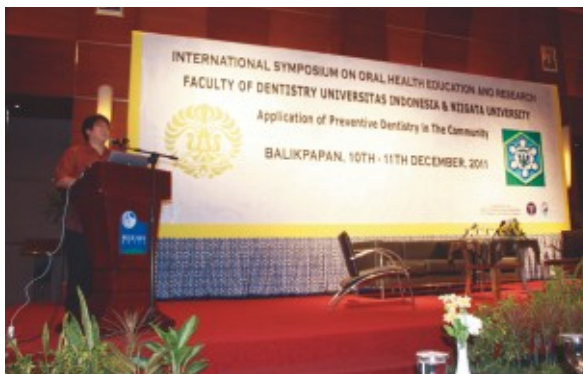
本シンポジウムは4つのセッションから構成されました。

## ○セッション I

### 学部生交換留学 ショートステイ/ショートビジット

本年度、多様な学生の受け入れや派遣を支援するプログラムとして、日本学生支援機構(JASSO)による留学生交流支援制度(ショートステイ/ショートビジット)が開始されました。新潟大学歯学部もこれに参加し、これまでにインドネシア大学、ガジャマダ大学(インドネシア)、タマサート大学(タイ)、陽明大学(台湾)の各歯学部との間で10日~2週間程度の学部生短期交換留学を実施しました。

本セッションではその報告が行われ、魚島勝美教授(本学)、Dr. Armasastra Bahar(インドネシア大学)座長のもと、Raul Medina メキシコ・コアウイラ大学歯学部長、市川哲雄教授(徳島大学歯学部)、小野和宏教授(本学)により基調講演が行われました。それぞれ、学部内に留まらない、国際交流を含んだ教育機会を与えることで学生の視野が広がり、一方向ではない学習を求める意識やコラボレーションに対する意識が非常に向上し、その後の歯学部教育課程において学生に及ぼされる大きな効果について述べられました。



前田歯学部長による開会の挨拶



セッション I でのディスカッション

次いで、4大学の学部学生から本交換留学の経験が発表されました。他の記事にもありますが、本学からは口腔生命福祉学科3年生の金子絵里奈さんと2年生の小宮山実里さんが参加し、壇上で発表した金子さんは、緊張しながらもガジャマダ大学で経験した現場実習について、丁寧に英語で表現していました。

## ○セッションII

### 若手研究者招聘事業

同じく本年度、夏から秋にかけ、新潟大学歯学部では多くの外国人若手研究者（大学院生含む）を招聘しました（日本学術振興会事業）。合計20名の若手研究者が来学し、2週間から2ヶ月程度、本人の希望する分野に滞在し、自身の研究を本学の研究者と共に遂行するとともに、自国にはない日本の医療システムについて理解を深めました。中には過去に日本で大学院を修了し、日本語も堪能という研究者も数名おり、本事業により再び日本に滞在・研究できることをとても喜んでいました。本セッションでは、葭原明弘教授（本学）、Dr. Felix A Joelimar（インドネシア大学）座長



SSSVと若手研究者招聘事業で本学に滞在したタイ・インドネシアの参加者



現地の歯科医師も多数参加しました

のもと、チェンマイ大学・チュラロンコン大学・コンケン大学・タマサート大学（いずれもタイ）、ガジャマダ大学・インドネシア大学（いずれもインドネシア）から参加した若手研究者の代表により、経験が報告されました。

## ○セッションIII

### 国際イニシアティブ人材育成プログラム

「国際イニシアティブ人材育成プログラム」は、今年度開始されたプロジェクトで、大学院医歯学総合研究科・口腔生命科学専攻が推進している再生工学的教育、国際口腔保健教育に焦点をあて、国内外で整備の遅れている再生医療に貢献できる人材育成と国際機関や国内機関の保健医療専門家の育成を目指したプログラムを開発・実施するものです。

今回のシンポジウムでは、国内外口腔保健医療専門家育成に関して、先の10月に本学特任教授としてタイから招聘されたYupin Songpaisan教授より、座長としてその目的と意義について、プログラム概要と本学における今後の課題について小川祐司准教授（本学・予防歯科学）



セッションIIIでのディスカッション



現地の新聞に掲載されました

より、専門家育成に必要な国際的カリキュラム開発の経験について Peter Carlsson 教授（スウェーデン・マルメ大学）より講演がありました。本セッションでなされた議論を基に、今後の専門家育成プログラム開発を大きく進めていくことになっています。

#### ○セッションIV 研究発表

今回のシンポジウムでは大学院生・医員を含む若手研究者の研究発表が奨励され、2日間にわたる25題の口演発表と、24題のポスタープレゼンテーションが行われました。

本学からも、硬組織形態学、口腔解剖学、口腔生理学、予防歯科学、齲蝕学、組織再建口腔外科学、顎顔面外科学、加齢歯科学、包括歯科補綴学、生体歯科補綴学、歯科矯正学、小児歯科学、歯科麻酔学、口腔保健学の各分野から合わせて25名が発表いたしました。本学とインドネシア大学のほか、国外からはモロッコのムハンマド5世大学から、国内では徳島大学歯学部から3名の先生が発表され、本学の若手参加者が交流できるよい機会

となりました。

\*

現地の新聞にも、「世界的な歯科の教授たちがバリクパパンに集まる」という見出しで、記事が掲載されました。本シンポジウムはインドネシア歯科医師会バリクパパン支部の共催でもあり、300ほどの席が設けられていた会場は、その支部に属する歯科医師が詰めかけ、とくに初日は最後列まで埋まるほどの盛況ぶりでした。しかもそのほとんどが女性で、東南アジアでは歯科医師数において男性より女性の方が圧倒的に多いと聞いてはおりましたが、それを眼前で経験することとなりました。

私自身にとっては初めての東南アジア訪問でした。バリクパパン市は市街地や観光地と言うよりも原油採掘が盛んな町で、海岸にいくつもの石油コンビナートが見られました。インドネシア国内では海産物も有名なところらしく、シーフードバーベキューのレストランはとても美味しかったですし、空港ではお土産にカニを買って帰る人をたくさん見かけました。気候は12月で気温35度、湿度もものすごく高く、一方で建物の中は冷房が



歓迎レセプション



ポスタープレゼンテーション



Dr Ariadna Djais さんに再会



オーラルプレゼンテーション

効きすぎていて内外温度差には閉口しましたが……。

その他外国ならではの驚きも多々ありましたが、インドネシア大学歯学部の方々是非常に友好的で、しかも日本語の堪能な方がとても多く、楽しく勉強になったシンポジウムでした。自分が大学院生だったころに隣の研究室に同じく大学院生として来ていたインドネシア大学のDr. Ariadna Djaisさんにも数年ぶりに再会し、現在は口腔生物学教室(基礎医学を統合した大きな研究室)の准教授になられており、当時の新潟の思い出などを懐かしく話すことができました。

本シンポジウムにおける目的のひとつに外国人研究者との学術交流がありましたが、私が大学院生だった頃と比較すると、現在は学部生や大学院生の国際交流の機会が格段に増えました。英語は流暢とまでいなくても、伝えたいことを何とか伝えられることがまずは大事と痛感します。今後も学部生・大学院生のみなさんには、短期滞在プログラムや国際シンポジウム等が開催される際には、新潟大学歯学部にて在学しているからこそその機会ですから、最大限活用して、各々の見識を広げ能力を伸ばしていただきたいと思います。

